

2017-18年度ライオン誌日本語版委員会 第3回会議 報告書

日 時：2017年10月11日(水)13:30～16:30

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 中村 泰久 (埼玉県・大宮北ライオンズクラブ)

一般社団法人専務理事 井 出 孝 (神奈川県・平塚ライオンズクラブ)

委員長 佐々木忠康 (331複合地区／北海道・小樽ライオンズクラブ)

編集長 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)

委員 久津間康允 (330複合地区／神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ)

委員 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)

委員 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)

委員 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)

委員 神 崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)

委員 小柴 登司 (337複合地区／沖縄県・浦添ウエスト ライオンズクラブ)

ITアドバイザー 荘 英 隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)

欠席者：国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)

ITアドバイザー 辰巳 博昭 (兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ)



佐々木委員長の開会あいさつに続いて、中村国際理事から国際関係の報告とあいさつ、一般社団法人・井出専務理事のあいさつがあり、その後、佐々木委員長、矢野編集長の進行で議事に入った。

【議事】

1. ライオン誌日本語版の運営 (別紙-月次決算報告)

8月度の収支計算書を基に会計担当者から説明があった。国際協会補助金はいまだ入金されていないため予算の1カ月分を購読料収入に計上しており、それ以外の収入はほぼ例月通りとなっている。支出の部では、委員会費は7月に新旧合同会議を開催し8月の会議開催はなかったため8月費用は無し。一方、事務費のうち通信費は一般社団法人日本ライオンズ及び各地区、複合地区の上半期請求の送料220,194円をライオン誌経費から支出しているため、例月より費用が多くなっている。月次では約55万円の収支差額があり、累計では1,527,372円の黒字になった。なお、前年度理事会に提出し承認を受けた予算案は、ウェブマガジンのコンテンツ案が確定していなかった段階のものだったため、今年度委員会で収支予算案を再検討し、ライオン誌委員会としての予算を日本ライオンズ理事会に提出する。

2. ライオン誌日本語版委員会規程／方針

前回会議で、「ライオン誌日本語版委員会規程」及び「ライオン誌日本語版委員会方針」の見直しについて、各委員が改正が必要と思われる項目や文言をチェックし持ち寄ることになっていた件につき、再度、委員長から抜本的な見直しが必要であるとの見解が示され、今年中に委員会で結論を出し、一般社団法人日本ライオンズの理事会に提出することとする。

3. 公式版ライオン誌編集者会議報告

10月2日、3日の両日、チェコ・プラハで開催された公式版ライオン誌編集者会議の内容について、会議に出席した矢野編集長から報告があった。

- 会議は、本部スタッフと業者が互いに称え合いながら、前年度編集者会議後のデジタル化進捗状況と今後の方向性を中心にプレゼンし、それに対して各国語版の編集者が質問をしたり意見を述べたりという形で進められた。その中で、ゆくゆくは完全ペーパーレスに移行すること、デジタル版やライオン誌アプリの効用などが強調された。前年度委員会では、印刷データをPDFに書き出しそのままデジタル化する本部のデジタル版では不十分であるとし、独自にウェブマガジンを作成しデジタル化を推進する方向を決めたが、今回の編集者会議に出席して、全面的に本部のデジタル版に移行した方がいいのではないかとの印象を持った。一方、各編集者から、会員のウェブへのアクセスが少ないためデジタル版の成功は難しいとの話題が出され、本部担当者からは会員やクラブ宛てにデジタル版を周知するためのEメールを送信するなど、デジタル化に向けた広報活動を行う必要があるとの回答があった。なお、肖像権を含む記事内容の責任の所在は、クラブからの投稿であればクラブのマーケティング・コミュニケーション(MC)委員長に、地区の場合は地区MC委員長、複合地区は複合地区MC委員長にあるという見解が示され、日本語版であればライオン誌委員長がその任に当たることが想定される。また、小柴委員から事前に寄せられた質問に対する回答も示された。

この件に関し、各委員からさまざまな意見が出されたが、詳細についてはウェブ会議を開いて検討することとし、会議を10月23日午後1時半から設営する。

4. 2017年10月号(9月20日見本/93,100部発行)出来

前回委員会後に変更となったページは特になく、各委員から出来について意見を求めた。佐々木委員長から、自らが取材し「ライオンズ・ニュース・カセット」に掲載した第1回日本ライオンズGAT運営会議の記事に対し、丸山正芳GMTエリアリーダーからご自分の発表内容の記述が実際のものとは異なるとの指摘があり、現在進行中の11月号に訂正とお詫びを出し、議事録に載った発表を誌面に掲載することが報告された。

5. 2017年11月号記事内容の確認

事前に配布された11月号校正を基に、記事の内容を検討した。特集は「地球温暖化」で、シカゴ国際大会で行われたアル・ゴア元アメリカ副大統領の講演を下敷きとしたリード記事と専門家へのインタビュー、森林の効用などをライオンズクラブを中心とした植樹や保全活動から考察する記事で構成する。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：西川恒彦委員」。LCIF理事長セミナーとその後の熊本地震及び九州北部豪雨の被災地視察は佐々木委員長が取材した。中村泰久国際理事から、2018年1月に実施する国際本部研修ツアーのPR掲載依頼があり、11月号表2スペースを提供する。また、中村理事から掲載依頼があった国際協会日本事務所の閉鎖と、OSEAL調整事務所開設についての情報は、この号のライオンズ・ニュース・カセット欄に掲載する。稲岡委員、渡邊委員から初校の誤植や表記に対する指摘があり、再校で直っていない部分に関しては最終の色校時に反映させる。

6. 2017年12月号台割(案)と主要記事予定

12月号以降の台割案と今年度主要記事予定が提出された。

12月号特集は「小児がん」で、渡邊委員から紹介を受けた専門医による解説記事と小児が

んの患者や家族を支えるNPOへの取材、ライオンズの活動事例の三本立てで構成する。「国際理事だより：中村泰久国際理事」、「編集室：渡邊信也委員」。佐々木委員長から、中村猛GST西日本エリアリーダーと、長澤千鶴子FWTエリアリーダーから、それぞれ記事掲載の依頼があったことが報告された。中村リーダーからの依頼は、今年度からスタートしたGSTの内容を周知する原稿掲載に関するもので、内容について事前に国際理事に見て頂いた上で、この号に掲載する。長澤リーダーからの依頼は、小児がん患者へのアクティビティとしてヘアドネーションの呼び掛けに協力してほしいというもので、特集「小児がん」のライオンズの活動事例の一つとして掲載する。中村国際理事から、国際本部が作成した「クラブ活性化計画（CQI）」の浸透を図るための記事掲載依頼があった。まず12月号の「国際理事だより」で中村理事から紹介して頂くこととする。

隔月刊となる2018年以降の基本台割案が提出された。これについて佐々木委員長から、前年度は全クラブ会員アンケートを実施し、73.9%と圧倒的多数の会員の回答を基に、委員会で収支のシミュレーションを行い審議を重ねた結果、2018年以降はウェブマガジンを毎月1回更新すると共に、印刷版は現行の60ページを維持して年6回隔月に発行することを決定し、理事会の承認を得た。が、昨年度のことは昨年度のこととして、今年度は改めて印刷版の発行有無を審議すべきではないかとの提案があり、各委員が意見を出し合った。昨年度、時間をかけて結論を導き理事会承認を得、本誌を始め各地区、複合地区でも既に広報している方向性をこの段階で見直す必要性は認められないとして、当面、現状の台割案を踏襲する意見に集約されたが、佐々木委員長から更にメイン記事は致し方ないがページ減もあり得るという条件が示され、印刷版の質と量については将来に向けた検討課題とすることが了解された。

その上で、1-2月号の台割案が検討され、佐々木委員長が取材の有無を検討していたOSEALフォーラムについては、職員1人を取材に派遣し、例年通り本誌に掲載することになった。また、中村国際理事からグッドラン・ビョート・イングバドター国際第1副会長公式訪問の取材依頼があり、1-2月号にスペースを取って掲載することとした。「国際理事だより：佐藤義雄国際理事」、「編集室：稲岡敬弘委員」。本部配信の国際理事会決議事項要約がこの号に間に合わなかった場合、次の印刷版発行は2月20日となり掲載が遅くなるが、こうした重要事項については掲載時期が遅くなくても印刷版に載せることとする。

9月12日に実施したウェブ会議の中で提案された特集企画について検討し、1-2月号は稲岡委員提案の「資金獲得事業」とし、他に佐々木委員長提案のグローバル奉仕フレームワークのうち視力に焦点を当てる「視覚障害者のバリアフリー」と、神崎委員提案の「聴覚障害者を対象にした奉仕活動」を取り上げることを決定した。

7. ライオン誌ウェブマガジン

- Wordpressでのサイト構築を依頼していた会社と折り合いがつかず、現在、ウェブマガジンのリニューアルが頓挫していることが報告され、サンプル・サイトを基に、以前に見積もりを取った会社に再見積もりを依頼し、費用をかけてもしっかりとしたウェブマガジンを構築する方向で再出発することになった。
- ウェブマガジンのリニューアルに際し、読者からオンラインで送信される各種フォームに通知メールを付加する機能拡張について、見積もりを基に検討し、これを承認した。
- ウェブマガジン用の動画撮影に必要な機材のうち、外付けマイク2台の購入を承認した。
- ウェブマガジン取材に関する新規原稿料案を外注先に提示して了解を得た後、年間の取材費を算定し次回以降の委員会で2018年以降の具体的な編集経費を検討する。

8. その他

- LCIFの協力を得てライオン誌委員会で製作し頒布してきた新書『LCIF早分かり』の著作権を国際協会に譲渡し、今後の改訂等は新設のOSEAL調整事務所に委ねることが佐々木委員長から提案され、ライオン誌委員会は製作には関与せず、内容についても関知しないことを明確にして頂くことを条件に著作権の譲渡を承認する。
- ライオン誌クラブ一括発送の送料について、発送を取り扱っている佐川急便から値上げ要請があり、同社を含む3社からの見積もりを基に検討した。昨今の宅配業界の情勢から値上げ自体は理解が出来ることから、3社中、最も安価な佐川急便に今後も配送を依頼するものとする。各クラブへは丁寧に値上げに関する情報をお知らせし、理解を得る。半期ごとのクラブへの請求では1円未満の端数を切り捨てて計算する。また、請求する送料は、上半期は6月末、下半期は12月末を基準に計算する。
- ライオンズスクール・シリーズ初級編『ライオンズクラブ入門』の残部が少なくなったことから増刷を予定していることが報告された。同書発刊時の凸版印刷の他、2018年以降の本誌印刷を発注する共同印刷からも見積もりを取り、次回の委員会で発行部数を決定する。
- ライオン誌サポーターによるアンケートの結果が報告された。

閉会あいさつ 佐々木忠康委員長

【次回以降委員会開催予定】

10月23日(月)	13:30～	ウェブ会議	
11月1日(水)	13:30～16:00	第4回会議	日本ライオンズ事務所
12月4日(月)	13:30～16:00	第5回会議	日本ライオンズ事務所

ライオン誌日本語版
2017-18年度収支計算書

2017年8月

(収入の部)

科	目	予 算 額	当 月 執 行 額	累 計 額	残 高	摘 要
項	目					
購 読 料 収 入		104,775,000	9,426,800	18,860,650	85,914,350	
	国際協会補助金	48,825,000	4,882,500	9,765,000	39,060,000	
	会 費	55,800,000	4,544,300	9,088,600	46,711,400	
	翻訳料補助金	150,000		7,050	142,950	
ライオン誌送料		37,000,000	4,151,243	8,302,486	28,697,514	
広 告 料 収 入						
そ の 他 収 入		1,450,000	97,318	620,494	829,506	
	頒布品収支差額	1,000,000	54,974	117,890	882,110	
	受 取 利 息					
	雑 収 入	450,000	42,344	502,604	△ 52,604	
特 別 収 入						
	特別の会費					
合 計		143,225,000	13,675,361	27,783,630	115,441,370	

(支 出 の 部)

科 目	予 算 額	当 月 執 行 額	累 計 額	残 高	摘 要
項 目					
直 接 出 版 費	79,700,000	8,945,308	17,545,708	62,154,292	
印 刷 費	25,000,000	2,782,171	5,543,908	19,456,092	注1
発 送 事 務 費	10,250,000	1,067,095	2,167,487	8,082,513	注2
ライオン誌送料	37,000,000	4,187,573	8,343,984	28,656,016	注3
旅 費 交 通 費	3,500,000	477,300	889,890	2,610,110	
編 集 関 係 諸 費	200,000	21,309	92,299	107,701	
原 稿 料 ・ 編 集 費	3,750,000	409,860	508,140	3,241,860	
広 告 関 係 諸 費					
そ の 他					
テ レ ビ 関 連 費	9,600,000	69,768	139,536	9,460,464	
旅 費 交 通 費	2,000,000			2,000,000	
原 稿 料 ・ 編 集 費	7,000,000			7,000,000	
サ ー ハ ー 使 用 費	600,000	69,768	139,536	460,464	
そ の 他					
委 員 会 費	4,650,000		516,492	4,133,508	
旅 費 交 通 費	4,500,000		514,270	3,985,730	注4
会 議 費					
統 合 関 連 費					
雑 費	150,000		2,222	147,778	
資 料 整 備 費					
事 務 費	48,815,000	4,113,295	8,054,522	40,760,478	
人 件 費	30,000,000	2,498,169	4,996,338	25,003,662	
福 利 厚 生 費	5,150,000	384,898	674,797	4,475,203	
旅 費 交 通 費	1,250,000	103,568	208,066	1,041,934	
通 信 費	1,350,000	287,839	361,409	988,591	注5
事 務 用 品 費	600,000	38,490	102,472	497,528	
図 書 費					
備 品 ・ 消 耗 品 費	50,000		3,671	46,329	
I T 関 連 費	1,800,000	111,888	331,776	1,468,224	
支 払 手 数 料	65,000	3,726	7,776	57,224	
保 守 ・ 修 繕 費					
借 室 料	7,500,000	624,056	1,248,112	6,251,888	
水 道 光 熱 料	400,000	32,041	62,865	337,135	
租 税 公 課	50,000			50,000	
減 価 償 却 費	250,000			250,000	
雑 費	350,000	28,620	57,240	292,760	
固 定 資 産 廃 棄 損					
(収 入) - (支 出)	460,000			460,000	
繰 越 収 支 差 額 金					
当 期 収 支 差 額 金		546,990	1,527,372	△ 1,527,372	
合 計	143,225,000	13,605,593	27,644,094	115,580,906	

注1 9月号92,900部発行。@27.73

1,425,978

注2 9月号発送手数料：個人発送(1978クラブ・59,722冊)657,008円

クラブ発送(1072クラブ・31,988冊)320,700円

9月号掲載誌、有料誌、PR誌送料送料及び発送手数料他、89,387円

注3 9月号送料：個人発送@62×59,722人=3,702,764円、クラブ発送(1072件)484,809円

注4 8月は委員会無し(第1回委員会は7/26)

注5 2017年度上半期請求書送料220,194円を含む